

ハーフテールモニュメント

滝本祥生

登場人物

野村 麻子(33)長女 大椰家長女

野村 晋平(32)麻子の夫

大椰 大^{だい}(22)長男 大椰家の跡取り

大椰 菜々(27)大椰家の三女

大椰 純(30)次女 一人だけ遠くに住んでいた

笠原 琴子(20)大の彼女

大椰 哲治(43)4人姉弟の叔父

大椰 梓(41)叔父の妻

時 代

場所 架空の離島。本州よりにフェリーで2時間ほどの場所にあり、佐渡島ほどの大きさ。

舞台中央に大きなダイニングテーブル、それを囲むように6脚の椅子。

よく見える場所に台座があり、ここに少女像が飾られている。

この大椰家の居間が舞台である。

第1場

明かりが点くと、ダイニングテーブルの上に一体の少女像が置かれている。そして、登場人物全員がその少女像に注目している。

麻子 どういうことですか？

硬い表情の麻子と哲治夫婦が向き合っている。

状況が飲み込めず、その様子を見ているその他の家族たち。

麻子 これはどういうことでしょうか？

哲治 どうしたんだい麻子ちゃん……？

梓 え、ええ。……何を仰ってるのかしら？

哲治 さあ。

麻子 (少女像を示して) これです……！

哲治 ああ……。どうだい力作だろう？

梓 力作ねえ。

哲治 実は、梓のお父さんが芸術家だね。

梓 実はそうなの、そうなのよ。

哲治 随分前に、習ったことがあるんだ。

梓 (少女像を見て) 力作だけどまだまだだねえ。でも筋はいい。

哲治 それはどうも。

梓 あら、褒めてないのよ。

哲治 まいったな。

哲治・梓 (笑う)

麻子 ……あの。

哲治 (わざとらしく気付いて) んん？ (麻子に) ……うん？ んんん？

梓 どうしたの？

哲治 さあ？

梓 もしかして、気を悪くされたの？ 麻子ちゃん。

哲治 そうなのかい？ (困惑)

梓 困ったわ。

哲治 あ、ああ。

麻子 やめてください。

哲治・梓 ……？

少しの間

麻子 出てって。

他 ……？

晋平 (麻子の真意を理解出来ず) 麻子？

麻子 申し訳ないけど、みんな席を外してくれる？

菜々 お姉ちゃん。

麻子 早く！

一同は顔を見合わせる。

晋平 僕がいるから。菜々ちゃんも。

麻子 晋平、あなたも。

晋平 でも麻子……。

麻子 (遮って) 全員。

一同(菜々以外は退場する)。

純 ……おばさん？

梓 純も、少しの間、あっちへ。

純 どこ？

梓 皆さんと向こうで。

哲治 行きなさい純。

純 はい。

菜々 いいでしょう？ 私は。

純も去る。

麻子は菜々が残る事に納得し、再び哲治夫婦と対峙する。

麻子 これはどういうことですか？

哲治 どうしたんだい麻子ちゃん。

麻子 どういうことですか？

梓 麻子ちゃん……。

麻子 さつき、哲治叔父さんがみんなに言った事です。

哲治 だから像を造ったんだよ、子供の頃の純の。

梓 少女像ね。

哲治 ああ。

梓 その頃の純ちゃんのことには知らないけど、面影はある。

哲治 ああ、可愛かったよ。

梓 ええ。

哲治 髪をこんな風に結んで。

梓 今と同じ髪ね、かわいい。

哲治 ああ、かわいかったなあ。なのに酷いよなあ。……小さな子に。

梓 悲劇ねえ……。

哲治 信じられないよ。

梓 ええだけど、現実を受け止めないと。

麻子 ……なんでこんな？

哲治 それはやつぱり、忘れないようにさ。

梓 忘れるべきじゃないものね。

哲治 それはそうさ。

梓 もちろんよ。

哲治 その為に、このリビングに飾って欲しいんだ。

梓 だって、犠牲になって来たんだから純は。

麻子 ……？

哲治 だから言っただろう？ 「決して忘れない様に、この人形をここに飾って欲

しい」。

梓 あの頃の純をね。

哲治 ああ、そしてゆくゆくはお店の方にも。な。

麻子 はあ？

菜々 え……。

梓 驚いた、すっかり有名店じゃない。

哲治 ああ、離島にしてはきちんとしたものを出すからねここは、ここ洋食屋は。

梓 あなた失礼よ。

哲治 失敬失敬。……だけどこれは、先代が言っていた言葉だぞ。

梓 まあ、麻子さん達のお父様が？

哲治 そうだよ。(神妙な表情で)あの人達も気の毒に。

梓 ええ。車ごと海へ落ちるなんてねえ。

哲治 (菜々に)なんであんな峠へ行ったのか、未だ解らないままなんだって？

菜々 ……はあ。

梓 まあこわい。

哲治 急ブレーキの跡が今も残っているそうだよ。

梓 2年も経つのに？ ……だけど純のことを考えたら、私、素直に同情できないの。

菜々 (怒って) どういうことですか？

哲治 ……まあまあお母さん。

梓 ごめんなさい。

少しの間

麻子 ……ずっと我慢してたんです。

哲治 何が？

麻子 先週、おじさんとおばさんたちが突然やってきて……。

哲治 そうだね。

梓 急に思い立ったの、島へ戻ろうって。

哲治 僕も生まれはこの島だからね。

梓 この人、ちょうど仕事も一段落付いたし。

哲治 早い話が派遣切りさ。

梓 やめてよ、はずかしい。

哲治 親戚だろ。だけど戻って良かったじゃないか。

梓 ええ、ステキなところだもの。離島って言っても人口は6万。

哲治 大きな島さ。

麻子 ……この数日、おじさん達に何を言われるのかと思ったら夜も眠れなくて。

哲治 おいおいおい、私たちが一体何を言うんだい。

梓 そうよ、夜は眠らなくちゃ、体に毒よ？

麻子 (遮って) でもなんで……純を連れて。

菜々 お姉ちゃん……。

麻子の様子をうかがう哲治夫妻。

哲治 ここだけの話……もつと簡単に見つかると思ってたんだ。

梓 引越していたのよ、随分前に。

哲治 不動産屋を訪ね歩いてなあ。

梓 ええ、近所にも聞いたわ。結局探偵まで雇って。純、どこにいたと思う？

麻子 ……。

梓 ドライブインにいたのよ、あの子。

哲治 高速道路のガソリンスタンドでアルバイトをしていたんだ。

梓 夏の間だけ。お給料も安くて。

哲治 油まみれになっていたよ。

梓 ええ。自動車整備も手伝わされていたのね。

哲治 尋ねて行ったら、なあ。

梓 嬉しそうに。私たちも随分会ってなかったし。

哲治 やっぱり心細かったんだろうねえ。

梓 ひとりぼっちだもの。

哲治 不憫でねえ。

梓 放つてはおけないわ、だから言ったの、これを機に一緒に帰ろうって。

哲治 ……まあ、ご両親のこともあったからねえ。

麻子 (我慢出来ず) だったら相談してください。

哲治 うん？

麻子 純を探しているなら探しているって、そうしたら協力もするし、迎えにも行
たのに。

哲治 というと？

麻子 突然……驚くじゃないですか。

哲治 そうかい。

菜々 当然です。

梓 それは今まで、探しもしなかったからじゃないの？ あなたたち。

麻子・菜々 ……。

哲治 ああ。驚かせたいと思ったんだよ。

梓 いちども会ってないんでしょう？ この15年。

麻子 ……。

梓 純が、ここを出て以来。

哲治 ああ。

梓 両親の暴力から、逃げ出したんだから純は。

哲治 (制して) お母さん。

梓は泣々黙る。

麻子 菜々は先にお店へ戻って。

菜々 でも……。

麻子 仕事でしょう？ 行きなさい。

菜々 ……。

退場する菜々。

純が入って来る。

純と入れ替わりに哲治夫妻は退場する。

2場

3日後の夕方5時頃。

家族の経営する洋食店で働くことになった純。

その説明をしている麻子。

純 (ファイルを渡して) これですか？

麻子 分かった？ ああこれね。ここに書いてあるから、今言った事全部。

純 はい。

麻子 とにかく堅苦しく考えないで。

純 はい。

麻子 最初はレジと簡単な接客、それと電話応対も。やったことある？

純 え？

麻子 洋食屋のレジ。

純 洋食屋は……でもレジの扱いなら。

麻子 なら大丈夫ね。

純 たぶん。

純はテーブルに置かれたままの少女像を見つけて

純 これ……。

麻子 ええ。結局、あのままにして。

純 はあ。

麻子 せっかく、造ってくれたし。

純 変な感じ。

麻子は空気を變えて

麻子 変わったでしよう？

純 え？

麻子 ウチ。お店も改装したのよ、すっかり。

純 ええ。

麻子 だから何でも言つて？ 解らないことがあったら。トイレの場所とか。……

冗談よ。

純 はい。

麻子 気にしないで。ウチも助かるし。

純 ええ。

麻子 ……違うから。

純 はい？

麻子 別に、哲治叔父さんたち言われたからじゃないから、言つとくけど。(テ-

ブルの少女像をさりげなく台座へ移動させる)

純 ええ。

麻子 それで純に働いてもらうわけじゃないから。私が決めたから。

純 解つてます。

麻子 他に何かやりたいことがあったら言つて？ 応援する。

純 はい。

麻子 店舗が隣だから菜々やうちの旦那さん……さっきの、わかる？
純 晋平さん？ さっきこれを。

麻子 そう。みんな昼食はここで食べるの。イヤじゃなかったら純も
純 イヤだなんて。

麻子 じゃあそうして。

純 ありがとうございます。

麻子 ……やめてよ。

純 はい？

麻子 言葉、普通でいいって。敬語じゃなくて。

純 ああ。

麻子 従業員じゃないんだし純は。まあここで働く以上従業員だけど。

純 がんばります。

麻子 でも姉弟なんだし。……家族だし。

純 はい。

少しの間

麻子 ま、無理すること無いけど。

純 え？

麻子 徐々に慣れていけばいいし。再会して、少ししか経ってないんだもん。

純 はあ。

麻子 久しぶりだし、そりゃ他人かもしれないけど。

純 そんな。

麻子 だからいい。敬語でも。仕方ないもん。いいわよ、うん。いいの。(自分に言
い聞かす)

純 (思わず笑う)

麻子 ねえ。(嬉しい)

純 はい。

初めて純の笑顔を見て嬉しくなる麻子だったが、同時に再び距離を取り。

麻子 私ね、

純 はい？

麻子 何でもしてあげたいと思ってる、出来るだけ。

純 ああ、はい……ありがとうございます。

麻子 だから、ここへ来るときも「こんにちは」「じゃなくて」「ただいま」「でいいのよ純は。」

純 ただいま……？

麻子 そうそう。

純 ……ただいま。(確認するように)

麻子 いい感じ。

純 ああ。

麻子 おかえり。

純 え。

麻子 で……いいよね、私も。

純 ……。

大と琴子と帰って来る。